

6月19日（金）日本経済新聞に15段全面広告を掲載

平成27年6月19日

スターツCAM株式会社

6月19日（金）日本経済新聞朝刊に15段全面広告を掲載しました。本広告のテーマは「スターツの土地活用学」です。

資産の有効活用である以上、土地活用の際に最も重要視されるのは、節税効果や収益性の高さといった経済的な観点です。しかし、果たして建築を考える際、経済性のみを判断の材料として良いのでしょうか？

一度建てた建物は動かすことができません。だからこそ、周辺環境や街の魅力がその価値を大きく左右します。10年、20年の後、ご家族の方が建物を受け継ぐ時、地域や街に魅力がなければ、建築の効果を十分に活かすことができないのです。

本当に価値ある建物を提供しようとするのならば、『今』だけではなく『未来』の街づくりまで考える必要があるのではないだろうか？そうした気づきをきっかけにはじまった、私たちの街づくりや地域貢献への取り組みをまとめたものが本広告となります。

ぜひご一読頂き、皆様の土地活用の一助として頂ければ幸いです。

本広告をはじめとする広告・CMライブラリーがこちらからご覧になれます。

[広告：CMライブラリー：http://www.starts-cam.co.jp/cm/index.html](http://www.starts-cam.co.jp/cm/index.html)

また、安心・安全な街づくりのため、私どもが普及に努める免震建物に関する内容はこちらからご覧になれます。ぜひ、合わせてご覧くださいますようお願い申し上げます。

[安心・安全の免震技術：http://www.starts-cam.co.jp/isolation/index.html](http://www.starts-cam.co.jp/isolation/index.html)



【紙面】

より詳細な紙面につきましては、次のページをご覧ください。



スターツはなぜ、免震住宅に アートを設置するのか。

江戸川区一之江。敷地にパブリックアートを設置しているマンションがあります。この街をもっと愛される街にしたい。スターツで賃貸住宅を建てたオーナーひとりひとりの気持ちをつないで、一之江アートプロジェクトがはじまりました。人がアートになじみ、アートが街になじむころ、きっといまよりこの街が好きになる。そう信じて、街が動きはじめています。

スターツで免震住宅を建てるオーナーには、井戸の設置もお願いしています。万が一のとき、飲用水は配給されますが、トイレの水は自分で確保しなければなりません。そこにだれもが使える井戸があれば、どんなに心強い街になることか。免震住宅は災害に強く、被災した地域の人々が集まる場所にもなります。あのアートに集まろうね。安心の目印なのです。

相続や資産継承にアートや井戸は必要ないと思われるかもしれませんが。たしかにスターツは、技術を究め、品質にこだわり、未来まで価値が続く建物をつくっています。しかし、それでは不十分。真の土地活用とは、建ててからさらに価値が高くなることです。いい建物づくり × いい街づくり。スターツが土地活用を考えると、その視線は、未来の先を見えています。

スターツの土地活用学